

辛いことを乗りこえて得られるもの

米子市立加茂中学校 三年 足立 ほの花

「なんのために走るのか。」

みなさんはこう聞かれたら、何とこたえますか。みなさんの中には、「体育で走らなければならないから。」や「トレーニングのため。」など様々な理由で走っている人がいると思います。今の私の場合は、「大きな達成感を得るため」に走っています。

私はバスケット部に所属しています。中学一年生のころ、そのバスケット部で夏限定の駅伝部に入ることになっていました。その時はバスケット部に入っているのに、走ることが大嫌いで、「最後まで走りきることができのかな。」「走りたくないなあ。」と思っていました。

駅伝部の練習が始まりました。が、私が思っていた以上に走ることができていました。練習のメニューはほとんどんキツイものへと変わっていましたが、そのキツイ練習を乗り越えたからこそ得られる達成感から、駅伝がともて楽しく感じられるようになっていきました。これが私と駅伝との出会いでした。

駅伝部には、私と同学年のバレー部の子がいました。その子と私はいつも駅伝で争っていました。私にとってその子は、よき友でありよきライバルでした。その子がいることで負けたくないと思ひ、速くなっていったんだと思っています。

そのように走っている中で、私は足に違和感を覚えるようになっていました。足の違和感は、シンスプリントというものでした。私がシンスプリントになっている間に、どんどんライバルの子は速くなっていていました。「その子にこされて悔しい」と思っていました。

それから足の痛みが強くなっていき、練習は見守るだけになってしまいま

した。他の子が練習しているところを見ると、「あーやっぱり私も走りた
い。」「やっぱり駅伝が好きなんだ。」と思う毎日で、県駅伝でもライバルの
子が活やくしているところを見ると悔しくてたまらなかつたです。結局中
学一年生の頃の私の駅伝の毎日は、そこで終わりました。

二年目の夏。私は今年も走っていました。「今年こそはライバルの子に勝
ちたい。」そう思っていました。やっぱり、練習はキツイ、辛い、苦しい、でも
負けたくない、中途半ばにあきらめたくない、最後まで走りきりたい。あ
の大きな達成感を味わいたい。毎日、この繰り返しでした。でも、その
日々はとても充実していて楽しかったです。

タイムトライアルの日、私は緊張していました。

「よいードン」

スタートの笛が鳴りました。私が前に出て、ライバルの子がうしろからつい
てきていました。いつ抜かれるか気が気ではありませんでしたが、結局抜か
れずに数秒差をつけて走りきることができました。

「やった！やっと勝てた！」

うれしくてうれしくてたまりませんでした。でも、まだ本番まではしばらく
あります。このタイムトライアルで「もっと強く、速くなりたい。」「もっとラ
イバルの子と争いたい。」と思いました。これから、どんなに辛くても悔しさ、
喜びなど色々な思いを胸に最後まで走りたいです。

私が伝えたいことは、辛くて苦しいことを乗り越えたからこそ得られる
ものがあるということです。どれだけ、先が見えなくて辛い練習も、いつか
はその二倍、三倍となって返ってきます。私の場合、大きな達成感とし
て返ってきただけです。どれだけ、こんなに苦しいならやめてやると思って
も、一瞬でも楽しいと思える時があるのなら、続ける価値は絶対にある
と思います。私はそう信じています。ですから、みなさんも一瞬でも楽しい
と思える時があるのなら続けてみてほしいです。その先で得られるものが
必ずあり、それはきつとあなたにすごい力をくれるからです。